

大正
末頃



長野測候所追分支所



信濃追分駅

大正
末頃



追分油屋前付近

昭和
初期頃



平成

しなの追分馬子唄道中

高原の村 信濃追分物語

軽井沢町 町制施行100周年記念
特別企画展

2023年 7/23(日) → 2023年 8/27(日)

江戸時代、ふたつの街道の分岐点に位置し、多くの旅人で賑わった宿場町「追分宿」は、江戸時代の終焉とともにその役割を終え、次第に静かな村へと姿を変えました。
交通の発達により、1893(明治26)年上野―直江津間に鉄道が敷かれると、1909(明治42)年には、追分に夏期臨時停車場がおかれ、1923(大正12)年には「信濃追分駅」が常設駅として開設され、追分は、新たな歴史を歩み始めました。この頃から、避暑客や登山客、高等文官試験の受験生などが訪れるようになり、また、学校や会社の寮が誘致され、多くの別荘が建てられるようになりました。その中には追分のもつ雰囲気惹かれ、作家・芸術家・学者などもこの地を訪れ、地元の人々と交流を深めています。
軽井沢町町制施行100年を迎え、本展では追分の歩んだ100年の歴史を関係資料により紹介します。

軽井沢町追分宿郷土館

Karuizawa Oiwakejuku Museum of Local History
〒389-0115 長野県北佐久郡軽井沢町追分1155-8 TEL・FAX 0267-45-1466

特別展示 ―新選組結成160年―

新選組 初代筆頭局長・芹沢鴨、副長・土方歳三
ゆかりの刀を展示



新選組副長・土方歳三ゆかりの刀
「備前國長船住横山藤原祐永」
(撮影：佐藤ケイスケ)

特別企画展開催中、新選組初代筆頭局長・芹沢鴨、副長・土方歳三ゆかりの刀を展示します。
文久3(1863)年、京の治安を守るため浪士隊230余名が、江戸から中山道を通り京へ向かう途中、追分宿に宿泊しました。
この一行の中に、後に新選組の局長となる芹沢鴨、副長となる土方歳三がいました。

■開館時間 / 午前9時～午後5時(入館は4時30分まで)
■入館料 / 一般400円(300円)、小中高生200円(150円)
※()内は20名以上団体料金、職員郷土文学記念館にも入館できます。

